

京都・地域企業 応援プロジェクト Community based Companies in Kyoto

“地域企業”の理念と実践の浸透に向けて「京都市 輝く地域企業表彰」

京都市では、京都市地域企業の持続的発展の推進に関する条例に基づき、地域と共に継承・発展する“地域企業”の理念の浸透及び実践の促進を図るために、昨年度、「京都市 輝く地域企業表彰」制度を創設しました。

この制度は、地域に長年親しまれている事業者の方々をはじめ、地域コミュニティの活性化、安心安全への貢献、文化の継承、環境の保全、自助努力や連携による新たな製品や価値の創造、多様な担い手の活躍支援の取組等々、地域に根差して事業や活動に取り組まれている事業者を表彰するものです。



制度の詳細は
ホームページを
御覧ください！



3年で1.2人前に育てるシステム
当社は1950年創業の建設塗装業「(株)竹延」からスピノフした会社です。(株)竹延は歴史があり、ベテランの職人は多く在籍するものの若い職人の入社は少ない。10年、20年先を見据えた時、自社だけでなく建設業界全体の人材不足は明らかでした。そこで、一から人材育成に取り組むことを目的に当社は設立しました。
「人前になるには10年かかる」。技能職にはそんなイメージがあるでしょう。入社しても新人が経験を積み重ねて技能を身につけるには長い年月がかかります。同時に新人を指導するベテラン職人は高齢化し、数年後にはリタイアしてしまう。この問題を解消するために、3年で1.2人前に育てるシステムを構築しました。塗装工程が10あるとして、そのうち3工程を鍛錬する方法です。例えばバテ作業だけを集中して覚えれば、入社後最短で一年半ほどでバテに慣れる経験10年の塗装職人に劣らない技能を身につけることができます。このために、大阪事務本部の近くに、熟練の職人から直接指導を受けられる研修施設を開設しました。また一流の職人技を遠隔で学べるICTシステム「技能伝承テレワーク」や、動画アプリ

「技ログ」を開発しました。これらの結果として、例えば入社3年目の社員3人で、京都の外資系ホテルの外壁の左官作業を仕上げるという実績を生み出した。一流の職人から学び、一流の仕事をするとは、若い職人たちの自信となり、やりがいとなります。
自社で保育ルームを開設
また当社では女性の採用にも力を入れています。優秀なのに子どもがいるから働けない、親の介護があるから就職できないという人が多いのも社会の現状です。
2016年当時、大阪市では待機児童が多く、保育園に子どもを預けられない社員が二人いました。また保育園が見つかったも、開園後に出勤すると朝の仕事に間に合わないという状況でした。そこで朝6時開園の保育ルームを自社で開設しました。同時に一日4時間の短勤務も可能になりました。現在、大阪市の待機児童問題は解消されたので、保育ルームは閉鎖しています。しかし、保育ルームを開設したことは、当社にいつでも女性社員を支援する意思と



京都市長からのメッセージ

京都の人たちは、昔から、人と人、人と組織との「つながり」を大切に、様々な困難を乗り越えてきました。

そんな先人たちの知恵と心に学びながら、市民の皆さんお一人お一人が心豊かに充実した人生を送っていただく。そんなまちを目指して取り組んでいるのが、京都ならではの「真のワーク・ライフ・バランス」です。

今回御登場の事業者の皆様も、様々な「つながり」を大切にしておられます。働く人の立場に立って、働き方改革に取り組まれた結果、会社や社会の魅力が高まる。そんな好循環が生まれているように感じました。

ウィズコロナ時代。日々の暮らしや働き方などで大きな変化が起きている今、改めて「真のワーク・ライフ・バランス」について、一緒に考えてみませんか。



京都市長 門川 大作

体制があることを示すことができたと思います。
今と未来の建設業界を支える人材を育成する
「建設アシスト」という新しい職種も創造しました。現場監督の従来の仕事のうち、施工管理業務、施工図業務、建設事務などの業務をCADのスキルを活かして担当する人材です。当社の正社員として採用し、大手ゼネコンなど提携他企業に派遣します。派遣といっても勤務は当社内に設けたサテライトオフィスで行うため、転勤はありません。完全週休二日制、残業はなし。入社後に建築施工管理技士などの資格を取得する、スキルアップのためのサポート制度も設けています。家事などと両立しながら、建設に携わる仕事を続けられます。建設アシストの登場によって、建設アシストと現場監督、双方のワークライフバランスを整えることができます。

考えています。
現在と将来の建設業界を支える人材獲得のために、画期的な人材育成方法や、埋もれた人材に光を当てる新しい制度や職域を今後も作り出していくつもりです。



京都 style 「真のワーク・ライフ・バランス」 応援 WEB

WEB サイトリニューアル!

家族や地域との「つながり」に着目した京都市発の新しい考え方「真のワーク・ライフ・バランス」*の情報を特設ホームページにて発信中!

市民・企業の実践例や女優の本上まなみさん、映画監督の河瀬直美さんへのインタビュー、イベント情報に加え、令和2年度からさらにコンテンツを充実させています!

New!

- ・市民の投稿による「真のワーク・ライフ・バランス」実践写真
- ・働き方改革や女性活躍等に関する企業向けの認証制度や補助金の情報、認証を取得した企業の紹介
- ・地域活動・文化活動のリンク集

*「真のワーク・ライフ・バランス」とは?

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に加え、地域活動や社会貢献活動等に積極的に参加することで、心豊かな充実した人生を送ることができるという、京都市独自の考え方です。



革新的な人材育成を

優秀な人材を活かすためのシステムを生む

株式会社KMユニテッド



些細な部分にも工夫を
生産性を上げ、高品質な製品づくりのために、3S「整理」「整頓」「清掃」も徹底して行っています。物を置きっぱなし、出しっぱなしにならないよう意識付けを行うために、棚の上を斜面にしてしまう道具「置けない君」を設置。また、キャビネット内のファイルがきちん

ある図や写真をつけて並べています。作業員の通路や、物を運搬するルートを示す床のラインは、シールを点線状に貼っています。シールを長い一本の線にして貼ると、一部が汚れた場合すべてを貼り替える必要があり、貼る面積が多くなるので、その箇所だけを貼り替えることで、容易にできます。汚れをそのまま放置することがなくなり、こういった改善テーマのほとんどは社員自らが提案したもので、毎年1万件以上の改善提案があり、それぞれ実行しています。

当社では障がい者雇用を拡大するために、京都府や京都市と連携し、支援学校の生徒の実習受け入れや雇用側への障がい者受入れセミナーも行っていきます。自社内での障がい者雇用にとどまらず、ノウハウ提供に向けた工場見学や講演も積極的に実施しています。これからは、障がい者のさらなる活躍機会を拡大し、事業を通じたより良い社会づくりに貢献していきたいと思っています。

株式会社KMユニテッド 代表取締役社長 竹延幸雄さん

(株)竹延代表取締役社長兼
任、「Japan Venture
Awards2019」中小企業庁長
官賞など受賞歴多数

